

第16回 新花巻図書館整備基本計画試案検討会議 会議録

- 1.開催日時 令和7年3月11日(火) 午後1時55分～4時
- 2.開催場所 生涯学園都市会館(まなび学園) 3階 第2・3中ホール
- 3.出席者 委員出席者16名 堀合範子委員、熊谷恵委員、小国朋身委員、山下牧子委員、
中村萬敬委員、佐々木史昭委員、前野祐子委員、福盛田弘委員、
高原智康委員、新淵ゆかり委員、村田豊隆委員、千田一栄委員、
鈴木秀宜委員、平澤広委員、菅野圭委員
欠席委員4名 阿部賢治委員、高橋和也委員、菊池桂委員、林博文委員
専門家1名 富士大学 早川光彦教授
検討会議として意見を求めた者
1名 イーハートープ図書館を作る会
事務局7名 新花巻図書館計画室 梅原室長、高橋次長、菊池主任主査、市川副主幹、
多田主査、幅下主査、小田島主任
- 4.報道機関 0社
- 5.傍聴者 5名
- 6.会議内容

事務局(高橋次長)

それでは、定刻前ではございますが、皆様お揃いのようなので、第16回新花巻図書館整備基本計画試案検討会議を開催したいと思います。本日はお忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日3月11日でございます。東日本大震災が発生した日でございますので、震災の発生時刻である14時46分が近づいてまいりましたら、犠牲者の皆様に追悼の意を表して1分間の黙とうを捧げたいと存じますので、ご協力よろしく願いいたしたいと思っております。その他は通常通り進行させていただきたいと思っておりますので、時間が近づきましたら改めてご案内させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本日の資料を確認させていただきます。本日の資料は、大変恐縮ですが、事前にお渡ししたかと思っておりますが、資料1-1として「新花巻図書館整備基本計画試案のver.3」、資料1-2として「建設場所本文案」、資料2として「新花巻図書館整備基本計画試案新旧対照表」、資料3として「新花巻図書館の建設候補地について」、資料4として「意見整理表まとめ(総合花巻病院跡地)」、資料5「意見整理表まとめ(花巻駅)」、資料6として「市民会議ヒアリングシート確認1から5自由記述まとめ」、その他ニュースレター等の資料になります。ご確認いただいて、不足はなかったでしょうか。もし今お手元にございませでしたら、事務局の方でご準備しておりますので、お声掛けをいただければと思います。

最後になりますが、本会議につきましては議事録を作成し公開しておりますので、委員の皆さんにはご発言の際はマイクを使用していただけますようお願い申し上げます。ご発言の際、座長である菅野生涯学習部長よりお示しさせていただきますので、マイクが来ましたらご発言をいただくという形

でお願いできればと思います。

では、開会にあたり本会議の座長である菅野生涯学習部長よりご挨拶申し上げます。

座長

皆さんこんにちは。生涯学習部長の菅野と申します。今日はどうぞよろしく申し上げます。

16回目の試案検討会議ということで、16回も、すごく長い時間話し合っていていただきまして、大変ありがとうございます。15回目は5月に開催いたしました。ちょっと間が空きましたけれども、その間建設候補地2ヶ所についての比較調査ということで結果が出てきて、また、意見集約で前回説明いたしましたけれども、市民会議を開催いたしました。市の方ではその市民会議の結果を受けまして、建設候補地の方向性を定めまして、試案に前回話し合ったソフト的な内容と、建設候補地を示して形となった試案を今回お示しして皆さんからご意見をいただきたいと思っています。

ここまでもなかなか長くて、図書館も実際できるのもまだまだなわけですが、ちょっとステップがあったかなと感じています。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

事務局(高橋次長)

それでは次第に入って議事に入りたいと思いますが、1点補足させていただきたいと思います。

本日、まるごと市民会議の方より、資料ということでご自分たちのご意見に関する資料をお手元に配布させていただいておりましたので、併せてご確認いただければと思いますし、先ほど部長の方から挨拶させていただきました、比較調査と市民会議をどうするかという部分につきましては、大変恐縮ではございましたが、文書の方で委員の皆様にはお送りしたかと思しますので、その部分をご確認いただければと思います。

それでは、これ以降の進行に当たっては本会議の座長である菅野生涯学習部長にお願いします。

座長

それではここから私の方で進めさせていただきます。

会議を進める前にまず最初に確認いたしますが、本会議については原則、公開するという事としておりますが、公開としてよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは早速事務局より新図書館整備基本計画試案についてということでご説明申し上げます。

事務局(梅原室長)

それでは、新花巻図書館整備基本計画試案についてご説明いたしますので、資料1をご準備いただきたいと思っております。

着座にて説明させていただきます。

新花巻図書館整備基本計画試案については、令和2年度に実施した「としょかんワークショップ」に出された意見などを反映して作成した新花巻図書館整備基本計画試案をもとに、新花巻図書

館整備基本計画試案検討会議をこれまで15回開催してまいりました。

今回ご提示しました試案については、それらの意見を踏まえて加除修正したものになります。そこで、新図書館が提供するサービスや機能、蔵書構成などについて一定の整理はできたものと考えております。

なお、これらの検討してきた内容については、「新しい図書館の検討状況」として、新図書館の面積、多様な活動スペースやカフェスペースの設置などハード面のほか、収蔵資料数、開架資料数や開館時間、閲覧・貸出のサービス内容、具体的な蔵書の構成、宮沢賢治などの先人資料を充実させることなど、イラストなどを交えてまとめ、第15回の試案検討会議でご説明するとともに、広報はなまき、昨年6月15日号や、市のホームページでお知らせしておりますし、各総合支所や各図書館、各振興センターにも配架しており、市民の皆様にお示しております。

今日はこれ以降に新たに整理したものについてご説明したいと思います。

最初に14ページをお開きください。

新花巻図書館は、「新花巻図書館整備基本構想」に示されている三つの基本方針をもとに、多くの方々に利用していただけるよう、特定のサービス目標を設定いたしました。

それでは順を追って説明いたします。

一つ目ですが、人口1人当たりの貸出冊数目標です。

花巻市立図書館の現状の人口1人当たりの貸出冊数は、3.3冊です。新図書館は、オープンから10年後の全国の公立図書館の貸出密度上位館の数値を参考に1人当たりの貸出冊数を11.7冊に引き上げることを目標としたいと思っております。

次の個人貸出登録者割合目標ですが、現在個人貸出登録者割合は、これは利用登録者を市の人口で割ったものですが、27.9%となっております。新図書館では、10年後にこの割合を50%に引き上げることを目指していきたいと思っております。これにより、市民の半数が図書館を利用するという目標と設定いたしました。

次に(2)年間来館者目標ですが、新花巻図書館では、貸出以外の利用も含む年間来館者数として、オープンから1年後に35万人、10年後には40万人を目標としております。その考え方についてご説明いたします。

まず、年間来館者数目標の考え方ですが、この目標は、人口の変動や図書館利用状況、他の先進図書館のデータをもとに設定いたしました。オープンから1年後の目標35万人についてですが、予測される1年後の本市の人口は「花巻市人口ビジョン」によると85,844人です。この人口の40%を図書館利用者として登録すると仮定しまして、85,844人の40%、つまり34,338人が個人貸出登録者数として算出されます。

次に、この個人貸出登録者数に今の花巻図書館の登録者1人当たりの平均利用回数である6回、そちらをかけますと、年間貸出者数が206,028人となります。

さらに、年間延べ来館者数を算出いたしますと、本を借りるだけではなくて、新聞を読んだり、学習室を利用するなど、登録しなくても図書館を利用する方々の利用率について、これは先進図書館を参考にしまして、2.3回といたしまして、先ほどの206,028人に2.3回をかけまして算出し、473,860人となります。

最後に、花巻地域の人口比等を考慮しまして、この 473,864 人に比率を乗じて年間来館者数目標は 355,398 人と算出しまして、目標として 35 万人と設定いたしました。

次に、オープンから 10 年後の目標 40 万人ですが、これの算出のしかたは、今お話した 1 年後のものと同じですが、予測される 10 年後の市の人口は人口ビジョンで 77,801 人ですので、この 50% が図書館の利用者として登録すると仮定しまして、77,801 人の 50%、つまり 38,901 人、こちらを個人貸出登録数として算出いたしました。

この個人貸出登録者数に、今の花巻図書館の登録者 1 人当たりの平均利用回数、この 6 回、こちらをかけた、年間貸出者数 233,406 人。次に、1 年目と同じように年間延べ来館者数の算出をいたしまして、この登録を、利用登録しなくても図書館を利用してくださる方々、この利用率 2.3 回をかけて 536,833 人となります。

最後に、花巻地域の人口比等を考慮しまして、比率を乗じて、年間の来館者数目標が 402,625 人というふうに算出いたしまして、目標として 40 万人と設定いたしました。

新花巻図書館では、地域の人口動向や他の先進図書館のデータを基に、今説明したとおり、オープンから 1 年後には 35 万人、10 年後には 40 万人の年間来館者数を目標として設定しております。

これらの目標値ですけれども、今後の市の人口減少でしたり、図書館の利用状況、また経済情勢を踏まえまして、今後の変更の可能性を含んでおりますが、現状の目標としては、今ご説明した数値としております。

このように明確な目標を設定しまして、それに向かって進むことで、多くの世代が利用しやすく、地域の情報拠点として機能していくこと、そういったことを目指してまいりたいと考えております。

次に 25 ページをお開きください。

25 ページですけれども、市民の皆さんから「宮沢賢治ゆかりの地を生かした図書館にしてほしい」という声を多くいただいております。これに対しては、「(2)郷土資料の収集・保存の拡充」という部分で詳細を掲載しております。特に②項で記載しているとおり、「宮沢賢治に関する資料は今後出版されるものはもちろん、未所蔵で購入可能な資料は古本も含め積極的に収集します。また、イーハトーブ館と役割分担し、現在イーハトーブ館が保有している専門的な研究資料や絶版等入手困難な資料等は引き続きイーハトーブ館で保有することとし、それらを含め、イーハトーブ館が保有する資料は図書館で閲覧または貸出できるようシステムの構築を検討します。」としております。これにより、市民の皆さんの意見を反映しながら整備を進めてまいりたいと思います。

次に、31 ページをお開きください。

31 ページ、こちらは新図書館の収蔵能力についてでございます。収蔵能力については、オープン後約 50 年間の資料の増加に対応するために、70 万冊程度の収蔵スペースを確保いたします。オープン時の蔵書数は、収蔵能力の 4 割に当たる 28 万冊程度といたしますが、現図書館では 21 万冊の資料がございまして、新館に向けて所蔵する資料の分析を行いながら、情報が古く不正確となった資料等は除籍をしまして、資料の整理を進め、今後オープンまでに年間 1 万冊程度、合計で 4.5 万冊程度の除籍を検討していたします。さらに蔵書構成や市の財政状況も考慮しながら、新しく 8

万冊程度を目安に資料購入するほか、地域館の閉架書庫、こちらは今ほぼ満杯になっていることから、保存が必要な資料で地域館でのニーズが少ない資料3.5万冊程度は新図書館の共同書庫に移管します。そのようにして28万冊程度としたいと考えております。

このほかに、「市民の交流の場となる多目的スペース」の設置についても、多くのご意見をいただいておりますので、こちら29ページになりますが、「(2)十分なスペースを確保」に記載してまますように、「自主的な生涯学習活動を支援するため多人数で活動できるスペースや、音楽や映像等の視聴覚資料を利用できるスペース、また音楽や映像等の試写ができるスペース、展示や発表活動ができるスペース、多目的に利用できるスペース」を設置する計画です。これにより、市民の交流の場として整備を進めてまいりたいと考えております。

追加となった部分の説明は以上でございます。

よろしく申し上げます。

座長

計画の試案について今説明ありましたが、皆さんの方からご質問やご意見があればお願いいたします。今説明あった部分、また、説明ない部分でも結構ですが、ページ数をおっしゃっていたければと思います。この資料の方もちょっと皆様にお渡しするのが遅くなりましたので、ちょっとご覧になってからでも結構でございます。

中村萬敬委員

はい、委員の中村でございます。

7ページ「花巻図書館の現状と課題」というところの表の1、花巻市立図書館4館の状況、これはこれは令和5年度の表が載っておりますが、1人当たりの貸し出し冊数、花巻図書館2.5冊、大迫図書館2.8冊、石鳥谷図書館6.4、東和図書館5.7ということで、花巻図書館が極めて4館の中で低いわけです。石鳥谷と東和の1人当たり貸出冊数が多いんですが、この中で、14ページ、見てください。新花巻図書館の基本計画の中の表の3、人口1人当たりの貸し出し冊数目標および個人貸し出し登録者割合の目標の表があります。この中で、①人口1人当たり貸出冊数ですが、現状は先ほど申し上げました通り、令和5年度は3.3、これはあれですか、花巻市立図書館全体の状況ですか。

座長

足したところが3.3になってますので。

中村萬敬委員

はい。そうすると、オープンから1年目8冊、オープンから10年後11.7冊っていうのは、4館合わせての結果ですか。

事務局(梅原室長)

人口1人当たりの貸出冊数については、花巻市全体の市民全体の貸出冊数ということにしております。

市立図書館4館ありますけれども、どこの図書館も利用できますし、地域館に行っても中央館の本は借りることができますし、逆もできますので、貸出冊数の目標については、市全体の人口で考えております。

中村萬敬委員

それで、ちょっとオープンから10年後の貸し出し目標冊数、大きいんじゃないかなと思っています。一気に8冊まで上がりますかね。オープン後1冊、1年目8冊、オープンから10年後11冊、約4倍の貸し出し冊数になっているんですが、いかがでしょうか。

事務局(高橋次長)

私の方から説明させていただきます。

この部分につきましては、あくまで目標として、今、利用率の高い先進図書館の数値を参考にさせていただいております。ある程度、この程度の目標を達成できなければ良い図書館とは言えないと思っていますので、私どもとしては高い目標とは考えておりませんが、早川先生、いかがでしょうか。

早川氏

はい。東北6県の市立図書館は76館あります。76市に図書館があります。住民1人当たり8冊を越えている図書館が数館です。ご指摘の通り、高い目標だと私も計画室にも申し上げたんですが、ただ、図書館を新しくして、市民の方に新しい図書館毎日でも行きたいですって言われるような図書館を数字に置き換えると、僕はやはり8は妥当だと思います。楽な数字ではないですけども、本当に市民の方々に期待していただけるのを数字に置き換えると8で、その後の11.4でしたっけ、10冊を超えてるのは東北では2館ですね。ただこれは、2館といえども2館あるわけですから、その他の予算計画を見ても、かなり東北の図書館ではトップクラスの経営資源を投入するという計画になってますので、十分手の届く、頼もしい目標だなと考えております。

素晴らしい目標を出されたなというふうに思っておりますので、楽しみにしております。

以上です。

座長

よろしいでしょうか。

中村萬敬委員

そうすると、ちょっと前の花巻図書館の館長の経験から言うと、かなりハードルが高いなという感じはするんですが、今後配置される職員の方々は、企画展とか、そういうのを大いにやってくと、積極的に花巻市民の皆様に図書館利用を訴えていく、発信していくことでの努力目標と捉えて

よろしいですか。

事務局(高橋次長)

努力目標ではございますが、今の、現図書館と協力し合って、できない目標ではないというふうに考えておりますので、皆様のご協力をいただきながら進めていきたいなというふうに考えております。

中村萬敬委員

はい、わかりました。ありがとうございます。

座長

今の実態に即したという形ではなくて、やはり新しい図書館、理想的な数値ということで、目標としてご理解いただければと思います。

早川氏

一つ補足させていただきます。

高い目標ですが、これを達成するための条件がいくつかあると思うんですが、スタートダッシュを切ることですね。要するに開館したときに大勢の人が押し寄せて、新しい登録者を獲得することですね。高い位置でスタートを切れば十分手の届く数字ではないかなというふうに思います。ですので、今、中村委員からもご指摘がありましたけれども、いろんな展示をしたりですね、もう一つ、いつ図書館ができますということを公式にアナウンスが可能になりますので、機運を盛り上げていく活動も、中村委員のご指摘の通り、現図書館でも活発に行っていくと。あとは、事前登録も活発に行っていくと。「待ってますから来てくださいね」というような活動を徹底して力を入れていって、できる限りスタートダッシュを早く切るということです。

その後ですね、10年後の目標もありますけども、4年目ぐらいまではずっと数字はいいと思います。ですので、そのときに時代の変化に対応した活動なんかも行っていければ十分達成可能な数字かなと思います。

もう一つ、計画室にも言いたいですが、1日の貸し出し点数と入館者は近くなるかもしれません。これちょっと覚えておいた方がいいと思います。1日2,000点貸し出しがあれば、入館者は2,000人近く、2,000人の8割か9割くらいになる可能性もあります。図書館の資料を使う以外でいろんな使い方がされると思いますので、この入館者っていうのも、新図書館では非常に重要な指標になってくると思いますのでそここのところを押さえていたほうが良いかなと思います。

以上です。

座長

よろしいでしょうか。他にご質問ご意見ございますでしょうか。

ちょっと見てからの方がいいですか。

中村萬敬委員

図書館の利用者の年代層なんですが、今は高齢者が多いんですけども、いずれ図書館っていうところは、ブックスタートから始まりまして、赤ちゃんが生まれた人に花巻市でも絵本を差し上げるというサービスやってると思うんですが、そこから始まって、幼児、小学、中学、高校、大学と、そして社会人となって退職して高齢者になるというようなことで、ある意味図書館というのはある程度限定された層だけが利用するところじゃないと思うんですよ。ある意味、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い年代層が利用できる場所だと思うんです。ですから、立地の問題は別として、そういう内容にしないと駄目なんじゃないかなと思うわけです。ですから、ある特定の年代層だけ方ターゲットとして図書館を建設するのはおかしいんじゃないかと思います。いかがでしょうか。

事務局(梅原室長)

まさにおっしゃるとおりだと思っております。今の図書館は年代の高い方と、小さいお子さんがいらっしゃる親子層の利用は多いのですが、中高生や大学生、20代の若い世代の利用が少ないということがございますので、新しい図書館は今花巻図書館を利用いただいていない層も、皆さんが利用できるような、そういった、赤ちゃんからお年寄りまで皆さんが利用できるような蔵書構成や企画を考えながら入館者数も増やしていきたいと思っております。

そちらについて、試案の中でも、18ページ19ページにそれぞれ年代ごとのサービスの考え方を掲載しております。こちらは試案検討会議の中でも一つひとつご意見いただきながら、障がいのある方へのサービスや成人、社会人へのサービスなど皆さんからご意見いただきながらまとめ上げてきたものでございますが、どの年代の方も、皆さんぜひ利用していただきたい、利用してもらえりような、そういった図書館にしたいと考えております。

中村萬敬委員

すいません、何回も質問して。

そうなるんですね、立地場所の問題になるんですが、駅前、この間新聞で報道されました。私新聞見てびっくりしたんですが、こういう形で花巻駅前候補地にという市長さんのお考えのようですが、いわば、この理由付けとして、市民会議の意見を踏まえてというふうにあります。確かに市民会議はやられたでしょうけども、それを理由付けとした理由をお聞きしたいんですが。

座長

候補地については、次のところでご説明いたしますので、そのときでよろしいですか。

中村萬敬委員

わかりました。

座長

他に質問ご意見ございませんでしょうか。

堀合範子委員

堀合といいます。

ちょっと考えまとまらないところがあるんですが、市民全体の読書率を増やす、増やしていきたいとか、入館者というのは、その先進図書館を参考にして、図書館に直接来なくても借りれる。そうなってくると、将来的には学校図書館を充実させて、学校図書館を利用している生徒たちが、そのパソコンを使って市立図書館の本を予約して借りれる。そういう小さい子どもは図書館に行くという交通手段がなかったりも考えられますので、市立図書館の蔵書を増やすことと、それから学校図書館のそういう、貸し出し自動システムっていうんですか、ちょっと表現がわからないですが、子どもたちが自由に借りれるような、そういうのと一緒に進めていって、全体として市民の読書率を高める、あるいは図書館に直接関係なくても移動図書館で足のないお年寄りたち、交通手段のないお年寄りたちも借りれるという、全体としてのそういった利用サービスの向上を目指しながら、新しい図書館の広い意味での来館者を増やす、そういったような捉え方と考えて良いでしょうか。

事務局(高橋次長)

堀合委員がおっしゃっていただいている通り、来館者という考え方と利用者という考え方があるかと思います。学校図書館につきましては、今、学校、教育委員会の方でも、学校図書館司書を導入させていただいておりますし、国の方では書店との関係も考えていますので、これからいろいろな考え方が整理されてくるかと思います。おっしゃったようにデジタルもそうですね。

これから色々な利用の仕方も増えることも想定し、現時点ではですね、新しい図書館を利用する人を増やすというふうに考えております。

座長

他にございますでしょうか。

ここまでご質問、ご意見ないということでもよろしいでしょうか。

それでは、2時46分にかかるかもしれません、次の説明に入らせていただきます。

事務局、お願いします。

事務局(梅原室長)

それでは、新花巻図書館の建設場所の検討結果についてご説明いたします。資料1-2と資料3をご準備いただきたいと思います。

はじめに市民会議についてご説明いたしますので、資料3をご準備ください。開いていただいて、2ページ目になります。

今回開催いたしました市民会議は、新花巻図書館の建設候補地に関して、比較調査の結果等を見ながら、市民の皆さんが感じていることについて、対話を通じて共有し、それらの意見を可視化・整理することで、市が新花巻図書館の建設候補地を選定するための判断材料とすることを目的とし

て実施いたしました。

会議の参加者につきましては、令和6年3月末現在の住民基本台帳より15歳以上の3,500人を無作為で抽出し案内を送付し、10代から80代の75名の方から参加申込をいただきました。

各回の参加者は、第1回目が65名、第2回目が64名、第3回目57名、第4回目が53名となっており、4回全てに参加された方が42名、3回参加された方が19名、2回参加された方が6名、1回のみ参加された方が2名、参加希望されましたが、都合により参加できなかった方が6名でした。

次に、3ページをご覧ください。

会議は、慶應義塾大学大学院特任教授の山口覚氏をメインファシリテーターに迎え、世代別に参加者を11グループに分けまして、各グループのテーブルファシリテーターについては、山口教授の研修を受けた生涯学習部以外の市職員が担当いたしました。

それぞれの会議の冒頭では、山口教授が対話を円滑に進めるための「対話の心得」として、『「私たち』と思う」こと、「話に耳を澄ませて聞く」こと、「否定も断定もしない」こと、「答えは一つと思わない」こと、「1人1回2分以内」、「アイデアをつなげる」こと、「心の変容を許す」ことを説明され、さまざまな考え方を認め合いながら、活動を進めていくことを重要視していること、そのために参加者の心理的な安全性を確保することが欠かせないこと、誰もが自分の意見を自由に言える温かい環境を作りたいと考えていること、自分の思い込みを外し、新たな発見や気づきを得る場となることを目指していること、全員が均等に話す機会を持てるようご協力してほしいことなど、参加者においてお願いして会議を進められました。

事前にお配りしております市民会議のニュースレター、こちらをご覧くださいと思います。そちらの写真にありますとおり、参加者が話しやすい雰囲気グループごとに本当に活発に対話いただきました。ニュースレターには参加者の声も記載しておりますので、併せてご覧いただければと思います。

市民会議の第1回目は昨年11月17日、日曜日に開催しまして、最初に会議の趣旨を説明した後で参加者が自分にとっての図書館についてグループで対話し、市から建設候補地の比較調査結果について説明をさせていただき、令和2年から6年までいただいた図書館に関する要望や意見交換・ワークショップ・署名などの情報も共有いたしました。その後皆さんに候補地ごとにメリットやデメリットについてグループで対話していただいております。

第2回目については12月21日、土曜日に開催いたしました。会議開始前の午前中には希望者の方、9人の方でしたけれども、双方の建設候補地周辺を徒歩で確認いたしました。会議では補足資料の説明や署名・要望等の資料の説明、また、前回の話し合いで出された候補地ごとのメリットやデメリットとそれらの分類をAIを使って整理したものについて参加者皆さんの意見の確認とAIがまとめたものに不足がないか見ていただきました。

3回目は年が明けてから1月26日、日曜日に開催しまして、2回目の会議の際に参加者の皆さんから追加で求められた補足資料の説明を行いまして、前回までに挙げられたデメリットに対する解決策について検討いたしました。そして最後に、これまでの対話を経て、現時点で自分がどう思うか話し合いを行っております。

最後の回、第4回目は、2月15日土曜日に開催いたしまして、これまでのメリット・デメリット、デメリットの解決策を整理したものを確認いただき、これまでの対話を踏まえて、自分がどう思うかなどについて、グループを横断して話し合っていました。その後、参加者個人の考えをヒアリングシートに記入し、その結果の一部を中間結果として、参加者の皆さんと共有しております。

座長

2時46分まで暫時休憩いたします。

事務局(高橋次長)

時刻はまもなく2時46分でございます。この後、放送があるかと思いますが、皆さんご起立いただきまして、黙祷にご協力いただければと思います。

黙祷。

(黙祷)

事務局(高橋次長)

ありがとうございました。

それでは引き続き会議を再開したいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

座長

では、続きからよろしく申し上げます。

事務局(梅原室長)

はい。では続きを進めます。

次は4ページをお開きください。

第4回目の会議で参加者の意見の傾向をヒアリングシートにより確認いたしました。

ヒアリングシートでは、第1回の話し合いの中で出されましたメリット・デメリットとそれらの分類を、AIを使い項目立てし、それぞれの候補地のメリットデメリット及びデメリットの解決策を「都市計画的視点」という大きな視点と、「建築計画的視点」の具体的な視点の二つの視点を踏まえ、「活性化」「文化・歴史」「他施設との連携」「周辺環境」「アクセス」「安全」「防災」「土地」「駐車場」「費用」の10の分類について、参加者の皆さんの考えを伺っております。

設問は【確認1】として、「10の「視点・分類」ごとに考えた場合、どちらの場所の方が良いと思いますか。理由もお書きください」としまして、選択肢「明らかに病院が良いと思う。」「どちらかといえば病院が良いと思う。」「どちらでもよい。」「どちらかといえば駅前が良いと思う。」「明らかに駅前が良いと思う。」の中から自分の考えに近いものを選択し、その理由も記載いただきました。

次に、【確認2】ですが、「10の「視点・分類」のうち重要と思うものについて、1位から5位まで順番をつけて書いてください。理由もお書きください」としまして、分類10項目の中で特に重要と思うもの5項目を選び、優先順位と選択理由を記載いただきました。

【確認3】は「どちらの建設候補地になったとしても、大切にしなければならないことはなんですか。」【確認4】は、「今回の市民会議の位置付け・やり方についてどう思われましたか。」【確認5】は「その他、図書館の建設候補地の選定のプロセスに携わったご感想など、ご自由に記入してください」としまして、それぞれ自由記載していただきました。

次の5ページ目ですけれども、こちらはヒアリングシートの集計です。

第4回の市民会議に参加いただいた51名、市民会議の間では51名の方にヒアリングシートを出していただきまして、第4回を途中で退席された方お二方と第4回市民会議に参加できなかった方で、これまで市民会議に2回以上参加された方16名に郵送でヒアリングシートをお送りしまして、提出を依頼いたしました。こちら返信あった方は14名です。

次のページ、6ページ7ページでございます。

6ページは【確認1】、7ページは【確認2】の集計となりますので、ご確認いただければと思います。

次は8ページ目9ページ目になります。

ここからは、市民会議の結果について分析した内容を記載しております。

8ページ目は【確認2】で「10の「視点・分類」のうち、重要と思うものについて、1位から5位まで順番をつけて書いてください。理由もお書きください」の確認について、参加者がその分類を重要と考えたその自由記述の理由をそれぞれAIにより要約してまとめたものになります。

なお、事前にお配りしております資料6に参加者からいただいた内容をそのまま記載しておりますので、あわせてご確認いただけたらと思います。

9ページ目は、確認2で、それぞれの重要と思う「視点・分類」について1位から5位までの人数を積み上げたものです。

重要視された「視点・分類」の上位五つは、⑤アクセス56人、①活性化51人、⑥安全40人、④周辺環境40人、⑨駐車場34人となっており、以下、⑩費用23人、③他施設との連携19人、⑧土地19人、②文化・歴史17人、⑦防災13人の順となっております。

次のページ、10ページ11ページになります。

【確認2】で重要視された上位五つの「視点・分類」を踏まえまして、確認1でどちらの場所が良いか聞いた中で人数が最も多いのは、⑤アクセス「明らかに駅前」42人、①活性化「明らかに駅前」27人、⑥安全「どちらかといえば駅前」25人④周辺環境「どちらかといえば駅前」21人、⑨駐車場「どちらかといえば病院」24人となっております。それ以降は、⑩費用「どちらでもよい」27人、③他施設との連携「どちらでもよい」26人、⑧土地「どちらかといえば病院」16人、②文化・歴史「どちらでもよい」30人、⑦防災は「どちらでもよい」28人となっております。

11ページは8ページと同様に、それぞれの分類の選択理由をAIにより要約しております。なお、こちらもお手元の資料6に参加者からいただいた内容をそのまま記載しておりますので、併せてご確認ください。

重要視されました上位五つの「視点・分類」を見ますと、⑤アクセスは「明らかに駅前」が選択されておりまして、「駅前はバスや電車などの公共交通機関が整っており、行きやすい」などの理由が挙げられています。①活性化は「明らかに駅前」が選択されておりまして、「駅前は既存の商業地域であり、活性化の基盤がある」や「新しい図書館ができることで駅前は活性化し、花巻の印象が良くなる」といった理由が挙げられています。⑥安全は「どちらかといえば駅前」でありまして、「駅前は交番が近く、明るく夜も安心」「人通りが多い駅前のほうが安全である」、④周辺環境は「どちらかといえば駅前」であり、「駅前はJRやバスの待ち時間を有効活用できるうえ、整備が整っており、近くに交番があり安心感もある」「人通りが多く、夜でも明るくて安心できるため、賑やかな場所であることが魅力的である」「設計次第で電車の振動や騒音がカバーできる」などが挙げられています。⑨駐車場は「どちらかといえば病院」が選択されておりまして、「病院跡地は広く駐車場の確保が容易」「駅前は駐車スペースが狭いため混雑する可能性がある」との理由が挙げられています。

次のページになります。

12 ページから 14 ページ、こちらについては【確認 3】の「どちらの建設候補地になったとしても大切にしなければならないことはなんですか。」に対する意見、【確認 4】の「今回の市民会議の位置付け・やり方についてどう思われましたか。」に対する回答、【確認 5】の「その他、図書館の建設候補地の選定のプロセスに携わったご感想など、自由に記入してください」に対する回答を AI により要約しております。

こちらについても、お手元の資料 6 に参加者からいただいた内容をそのまま記載しております。こちらもご確認いただければと思います。

次に 15 ページ、こちらをご覧ください。

15 ページは、市民会議で参加者から出されたデメリットとその解決策を AI により要約しております。

なお、お手元にごございます資料 1-1 と資料 2-1 に市民会議でまとめられたメリット、デメリット、デメリットの解決策について記載しておりますので、こちらも確認していただければと思います。

次に 16 ページ目でございます。

市民会議では、参加者が市民の目線で 2 か所の図書館建設候補地について、メリットやデメリット、デメリットの解決策について話し合い、どちらの候補地が望ましいか自由に意見を述べるなど対話を繰り返す中で、それぞれ個人の意見をまとめ、ヒアリングシートに記載いたしました。

市はその結果を踏まえ、次のとおり新花巻図書館の建設候補地を考えました。

まず、【確認 2】で重要視された分類の上位五つは、1.アクセス、2.活性化、3.安全、4.周辺環境、5.駐車場の順番で、重要視された分類ごとに、候補地の選択で多かったものは、アクセスは「明らかに駅前」40 人、活性化は「明らかに駅前」27 人、安全は「どちらかといえば駅前」25 人、周辺環境は「どちらかといえば駅前」21 人、駐車場は「どちらかといえば病院」24 人でした。

以上から、重要視された 5 分類のうち 4 分類で駅前は評価されており、駐車場のみが病院跡地が

評価されています。

これらの分類を重視する方の自由記述を AI によりまとめますと、アクセスでは「駅前バスや電車などの公共交通機関が整っており、行きやすい」「高齢者や学生にも利用しやすい場所は駅前である」。活性化では、「新しい図書館ができることで駅前が活性化し、花巻の印象が良くなる」「観光客や花巻市民が利用しやすく、街の発展につながる」とまとめられています。同様に AI でまとめた安全は、「駅前は交番が近く、明るく夜間も安心」「人通りが多い駅前のほうが安全である」。周辺環境は「人通りが多く、夜でも明るくて安心できるため、賑やかな場所であることが魅力的である」とされています。

駐車場については、病院跡地を評価する意見が多くありました。

重要視される 5 分類のうち 4 分類で駅前の方が評価されていることがわかりましたので、市は「花巻駅前」を候補地として選択したいと考えております。

また、多くの市民に利用され、花巻市全体の活性化にも寄与することが期待される「花巻駅前」を新花巻図書館の建設候補地として選択し、新花巻図書館整備基本計画を策定したいと考えております。

なお、市民会議で出されました病院跡地が良いとする意見では、駐車場の使いやすさ、静かな環境などの意見もございましたので、新花巻図書館の整備にあたりましては、そのような意見や、17 ページの中ほどに「検討にあたり」という部分で記載しておりますが、そういった内容も含めまして整備できるように検討したいと考えております。

また今後、花巻駅前に新図書館を整備するにあたりましては、引き続き市民の声を聞く機会を設けるなど、市民の意見を反映させながら整備を進めたいと考えております。

ここまでの市民会議の説明、場所に関する経過になります。

続いて、資料 1-2 は計画の中に盛り込む本文案です。「建設場所の本文案」をご準備いただきたいと思っております。

新花巻図書館の建設場所につきましては、新花巻図書館整備基本構想において、こちら、案にも書いておりますが、「3 新花巻図書館整備の方針、(3)建設場所に関する方針、図書館は、市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべきであり、交通アクセスが良くわかりやすく、市全域から行きやすい場所で、十分な駐車場も確保できる場所が望ましいと考えます。また、図書館は市街地再生に資する施設としてまちづくりや都市計画とも整合したものとする必要があり、本市は平成 28 年 6 月に市街地の定住化を促進し市街地に都市機能を誘導する「花巻市立地適正化計画」を策定し公表しましたが、新しい図書館は其中で示す「都市機能誘導区域」に整備することとし、場所によっては近隣施設との連携や他施設との複合化など、民間との連携も含めて検討し、候補地を数箇所選定した上で、基本計画において場所を定めることとします。」と示しております。

また、花巻市議会は令和 2 年 3 月 18 日に新花巻図書館整備特別委員会を設置しまして、その検討結果として令和 2 年 12 月 17 日に市議会議長から市長へ提言があり、その内容はこちらの中ほどに記載して通り、「①建設場所について 新花巻図書館整備基本構想の建設場所に関する方針に基づき、都市機能誘導区域内へ整備することとし、市が提案する花巻駅周辺及びまなび学園周辺の

いずれかとされたいこと。なお、決定に当たってはその経過及び理由を明確に示し、市民の理解が得られるよう努めること。②建設用地について 建設用地は市有地とすること。借地に建設することにより将来にわたる財政負担と、土地利用上における権利関係の不安要素は避けるべきであること。③複合施設について 図書館単独での整備を基本とすること。新花巻図書館整備基本構想に盛り込まれた市民のくつろぎと交流のスペースとして、飲食コーナーは図書館に必要な機能の一つとして位置づけ、整備を検討されたいこと。」

これらを踏まえまして、市は令和2年10月15日に開催した市議会議員説明会および10月25日に開催しました図書館ワークショップ「みんなで話そう未来の図書館」第5回目〈場所を考える〉において、新花巻図書館建設候補地については、2ページ目、表10にございます、6か所7案、具体的に言いますと、まなび学園周辺の花巻営林署跡地、まなび学園近辺の2案、総合花巻病院跡地、花巻駅周辺のJR花巻駅前、なはんプラザ東側の花巻駅南駐車場について提示しまして、説明してきました。

その後、市は令和3年度に当計画の試案を検討するための会議、この試案検討会議を設置しまして、市民や関係団体からの意見を反映した基本計画試案を作成しました。

その後、令和4年度には、図書館の建設場所を6か所の候補地から検討し、花巻駅前のJR用地がいいとする意見が多くなりましたが、JR東日本との条件交渉が必要であることから、市は17回の市民説明会を開催し、意見を伺った結果、総合花巻病院跡地と花巻駅前のJR用地の二つの候補地に絞り込みました。

その後、令和5年12月に市議会の承認を得て予算化しまして、両候補地の事業費やイメージ図などを比較する調査を業務委託いたしました。

そしてその業務委託結果を受けて、去年の11月からは比較調査の結果等を見ながら建設候補地について対話によってお互いの意見を共有し、整理する市民会議を開催いたしまして、市民会議については先ほどご説明した通り、3,500人の無作為抽出の方にご案内を出して、10代から80代の方75名の方に参加申し込みをしていただいたんですけども、この市民会議において重要視されました5分類のうち、「活性化」「アクセス」については「明らかに駅前が良いと思う」、「安全」

「周辺環境」については、「どちらかと言えば駅前が良いと思う」と、4分類において、駅前の方が評価されまして、総合花巻病院跡地については、「駐車場」についてののみ、「どちらかと言えば病院側が良いと思う」との評価であったことなどを受けまして、駅前の方が評価されている。このような結果を踏まえ、市としては花巻駅前を建設候補地と判断いたしました。

また、新花巻図書館の整備に当たりましては、現在JR花巻駅東口には花巻駅の南第1駐車場60台、で第2駐車場には121台ということで、合計181台の駐車スペースがございます。「新花巻図書館建設候補地比較調査」によりますと、そのうち60台程度の空きが日常的に受けられるとの調査結果が出ておりますので、そちらの方も踏まえまして、新花巻図書館整備に当たりましては、4ページ目、ちょっとページが落丁してるんですが、4ページ目の下のところに図で示してるんですけども、こちらにあります通り、現在JR東日本所有地で図書館建物に隣接することとなる部分に平面でおよそ38台の駐車場を整備することとします。

また第2駐車場については、JR線路に隣接する市道の一部を廃止しまして、60台の駐車スペース

スを増設することにより、第2駐車場の駐車台数を合計181台に増やします。

その結果、市が整備する図書館建物の隣接地の38台および第2駐車場に増設する60台の駐車スペースに加え、現在日常的に空きが見られる第1駐車場および第2駐車場の60台程度の駐車スペースを合わせますと、新花巻図書館の利用者が日常的に利用できる駐車スペースは合計で158台となり、花巻図書館に必要な駐車台数の目安とされるおよそ120台以上という駐車スペースを確保できるということになります。

さらに、高齢者の方、障がい者の方、乳幼児連れの方々などが図書館に近い場所に駐車できるようにすることを目指しまして、図書館の建物の隣接地の駐車場スペース、この資料に38台と書いている部分ですけれども、そちらについてはあらかじめ図書館利用者として登録した高齢者や障がい者、乳幼児連れの方々など優先順位に利用できるようにいたしまして、またそれ以外の方々についても利用の都度図書館駐車券を配布するなど、無料で駐車場利用できるシステムを工夫して考えたいと思っております。

最後に、今後、この基本計画策定後に新花巻図書館の設計等の予算について、市議会の承認を得た場合は、新花巻図書館の設計等に入っていきますが、引き続き市民の皆さんの声を聞く機会を設けるなど、皆さんの意見を反映させながら整備を進めたいとそうように考えております。

説明は以上でございます。

座長

はい。新花巻図書館の建設場所の検討経過と建設場所について、基本計画に定める建設場所についての記述について説明がありました。

まず、こちら横の資料になりますがAIで要約なんていう言葉も出ておりましたけど、見方でちょっとわからないとかっていうことはございませんでしたでしょうか。説明わかりましたでしょうか。いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、説明全般についてご質問ご意見がございましたらばお願いいたします。

はい。

中村萬敬委員

委員の中村でございます。

先ほど、駅前の候補地として上げたという話があるんですが、まず、市民会議のあり方なんですけど、慶應大学山口先生が市民会議を始めるときに、第1回目、集まった皆さんに対して、ここは場所を決めるところではございませんという話をしているようです。で、最終的に4回やったわけですが、こういう市の方では、いわば新聞報道のとおり、駅前の意見が多かったから駅前にしたというふうにして、いわば市民会議の意見を採用したわけですね。これ、ちょっとひどいじゃないですか。市民会議のメンバーに対して。それほど重要な会議なのに、なぜ我々はそこにいるのかっていうことを認識してなかったと思うんです。

と、もう一点、花巻市はね、文化とか歴史を大切にしたい気持ちはありませんか。ただ単に交通的な、アクセス、あるいは安全。安全も、ここの病院跡地に交番を持ってくれば安全じゃないです

か。駅前にただ交番があるから、それで安全だとか、そういう論理は成り立たないと思います。

それともう一つ、活性化ですよ。商業施設ならばまだしもわかるんですが、図書館は果たして駅前の活性化の起爆剤になるのでしょうか。私は前、別な会議といいますか、まちづくり総合計画の説明会に出席いたしました。花南振興センターで説明がなされたわけですが、そのときに副市長さんは、図書館は街の活性化の起爆剤にはならないというふうにおっしゃっているわけです。それは私も、はっきり言って文教施設は集客とか、そういう施設ではなくなると思うんですね。むしろ飲み屋さんとか、歓楽街とかね、そういう、あるいはデパート、スーパーとか、駅前に。それならば活性化、賑わいは創出できるんでしょうけども、ちょっと図書館で活性化を図るっていうのは、疑問に思います。

そこ、すいませんが、3点お願いします。

座長

お願いします。

事務局(高橋次長)

今3点ご質問があったかと思います。

1点目につきましては、市民会議の結果を受けて、そのまま市で決定したのではないかという意見かと思います。2点目は、アクセス、安全という部分に関しては、重要視しなくてもいいのではないかというご意見、ご質問だったかと思いますし、3点目は、図書館は活性化に繋がらないのではないかというご質問かと思います。

まず1点目ですけれども、山口さんは確かにそのようにおっしゃっていただいて、メリット、デメリット、デメリットに対する判断項目を市に提供するための会議ですというふうにお伝えしています。

それを受けて、市といたしましては、あくまでそういう意見もあった、判断材料として提示されたものを含め検討して、先ほど中村委員がおっしゃっていただいたように、多くの市民の方、利用者の方が利用できる施設としては、そういう部分を踏まえると、駅前の方がいいのではないかというふうに判断をさせていただいたものなので、あくまで市民会議のものをそのまま流用したのではないというふうにご理解いただければと思います。

また、アクセス、安全という部分につきましては、皆様お手元に資料6だったかと思うんですけれども、皆さんの自由記述欄っていうものを判断したときに、自由記述欄というものをそのままの意見、載せさせていただいております。A4縦版の資料ですけども、様々なご意見そのままの意見をさせていただいておりますが、やはり利用するためにはそういう部分も必要ではないかという意見、私達もそうだなというふうに理解をさせていただいておりますので、一方的に交番をこちらに持ってくればいいという世界の話ではないかなというふうに考え、このように判断させていただきました。

3点目、こちらの方につきましても、先ほど中村委員おっしゃっていただいた利用率をどうあげていくか、赤ちゃんから高齢の方までというのは私達もずっと考えているところでございます。試

案検討会議の中でも皆様にご説明させていただいて、先ほど梅原の方からもどういう形にすればいいかという部分でソフトの部分をご説明させていただいたかと思いますが、そういう部分も踏まえて市で判断させていただいておりますので、活性化という部分についても、当然まち作りという部分をおっしゃいましたけれども、そういう部分ではなくて、まちを活性化する、人口が減っていくまちを活性化する一つの起爆剤として図書館という方法もあるのではないかなというふうに考え選択させていただいております。

事務局(梅原室長)

先ほど中村委員がおっしゃった、新しい図書館には「文化・歴史」は関係ないのかというところ、こちらについては資料にも書いておりますけれども、(市民会議では)「文化・歴史」については「どちらでもよい」と答えた方が多く、30人でした。

先ほどの試案の説明でも、「郷土資料の収集・保存の拡充」に力を入れていきますとご説明したとおり、宮沢賢治につきましては、市民会議の中でも補足資料を示しまして、参加者の皆さんに病院跡地は稗貫農学校の跡地でもある、トシさんが働いた花巻女学校の跡地でもということとともに、花巻駅前『シグナルとシグナレス』の舞台でもあり、軽便鉄道が通ったところであると両方の内容についてご説明をしまして、それを踏まえて皆さんが文化と歴史を大切にするためには、図書館は駅前でも花巻病院跡地でもどちらでもいいのではないかと考えたことですので、市としても「文化・歴史」が(図書館には)必要ないとは思っておりません。基本計画にも、そういった蔵書を増やしていきたい、宮沢賢治等の先人のギャラリー的なものも作っていきたいと考えておりますので、大事に思っているところです。

中村萬敬委員

すいません。何回も。市民に歴史・文化を大切にするという心を育むと、生涯学習はそういう役割があるんじゃないですか。

この調査結果、どちらでも良い、確かに今の一般市民の方々、花巻のオリジナルの歴史・文化を大切にする心を積極的に持ってないという捉え方になると思うんです。

座長

そこはどちらでも良いっていうのはどうでもいいということじゃなくて、駅前に建てても、病院跡地に建てても、どちらにも差がないという意味ですので、どちらでも良いって書いてるから、そこを大切に思わないっていうことではないと思っておりますので、そこは、すいません。

中村萬敬委員

すいません、何回も。自ずとね、歴史と文化を大切にしようとする気持ちを育むことがいわば、子どもからお年寄りまで郷土愛に繋がっていくと思うんですよ。

若い方々も学校を卒業して、大学、例えば東京の大学に。

座長

すみません。駅前に建つと、文化と歴史を大切にしていけないということになるとおっしゃりたいという意味でしょうか。

中村萬敬委員

いやだからそこを、部長さんとして見解を聞きたい。郷土を愛する人を、歴史を大切にしていきたいかという。

座長

その質問の意味は、駅前に図書館が建つと文化と歴史を育むことにならない、郷土愛を育むことにならないよという趣旨でおっしゃってることですか。

中村萬敬委員

そうです。

事務局(高橋次長)

私達が判断するに当たりまして、やっぱり自由記述というものを、参加者の方がどういうふうな意見を考えて選択がされたかを重視し、全部読ませていただいております。皆様お手元の資料3をお開きいただければと思いますが、資料3の4ページ等にですね、歴史のどちらでも良いという部分があるかと思えます。確かに文化・歴史につきましては、明らかに病院が良いという声だったり、どちらかといえば病院が良いという声もありますが、どちらでも良いという方も30人いらっしゃいます。

こちらの意見としては、例えば、どちらも賢治の作品やその他の先人たちに関わる強みを持っているというご意見だったり、双方に文化・歴史があり、花巻市のこれまでを語る上で良い場所であるというご意見をいただいております。

これは、参加いただいた方の素直なご意見だとして、私達も気づかされた意見でございます。そういう部分を踏まえまして、私達としては文化・歴史を決して重視していないわけではなく、ご意見も踏まえまして、回答させていただいたうえで、判断させていただいたというふうにご理解いただければと思います。

中村萬敬委員

はい。生涯学習ということの捉え方がちょっと違うような感じがしてならないんです。これちょっと話がずれますけれども、今のまなび学園の、

座長

あまりずれない範囲でお願いします。

中村萬敬委員

すいません。すぐ終わりますから。

まなび学園でね、例えばシニア大学とか、いろんな講座をやってますよね。それ、いわゆる趣味の分野なんですよね。これも必要です。ただし、やっぱり郷土愛を育む心を育てるとか、あるいは主権者教育とか、そういうのも入ってくると思うんです。なおかつ地域課題を解決する人材を育てる、だからある意味ね、何ていうかな、カルチャーセンターに任せても良いところはカルチャーセンターに任せて、むしろ行政とすれば、こういった市民を育てるといふような観点で、一生懸命仕事に頑張ってもらいたいということでした。

生涯学習部って、首長部局にあるから教育委員との連携とれないと思うんですが、学校教育との連携とかというのでも考えて行ってほしいと思います。

以上でございます。答えはいいません。

座長

今、歴史と文化を軽んじてるんじゃないとか、その生涯学習に関するご意見ございましたけれども、皆さんはどうお考えでしょうか。何か今のお考えについてご意見があればお伺いしたいと思いますけれども。

佐々木史昭委員

いろんな立場の方がいろんなことをおっしゃって、それぞれの人が何か自由に物事を考えて発言するのはよろしいと思うんですけども、それぞれのおっしゃってることを否定をするのではなくて、それを俯瞰する方が見て、総合的に駅前の方が多かったのかなという理解を淡々としたということではないかというふうに感じております。

なので、花巻に住んでる方は、多少感じ方とか発言の仕方とか違うんだと思うんですけども、やっぱり花巻に郷土愛を持ってない方が図書館の建て方に関心を持って発言するようなことは多分あんまりなくて、発言されたりですね、いろいろ考えておられる方は、みんなそれぞれの立場で郷土を愛して歴史を愛してるのではないのでしょうか。でも意見はそれぞれ違って当たり前で、その中でどちらの方が多少多いか少ないかということなのかなというふうに思っています。

すいません。以上です。

座長

ありがとうございます。

はい、どうぞ。

山下牧子委員

はい。山下といいます。

市民会議は段々に参加者の人数が少なくなっていましたけれども、これ4時間4回、体力と忍耐と集中力が要求されて、皆さんすごいなと、本当に我慢強いなと、大きな声も荒げるだけでなく

て、本当に穏やかな、ルールを守る市民の姿を見た思いがしました。

でも、1回も参加されなかった人も、だんだん少なくなっていった方も、この会議のあり方に失望されたからではないかと思ってます。理由は聞いておられますか。

それから、多くの参加者が本当にこの自由記述、読ませていただきましたけれども、本当に真面目に誠実に対応しているなど、ヒアリングシートの記入にも多くの人が悩んでいますね。それだからこそ、どちらでも良いとの記述も少なくなかったのではないかと思います。駅前建設が圧倒的に多いとはいえないんじゃないかなと思っております。

それからこの市民会議に参加した人からお手紙をいただきました。ちょっと読ませていただきます。

市民会議を終えて、11月17日の第1回をスタートに、4回の市民会議が2月15日に終了しました。

1回あたり4時間の長時間にわたる会議であった。ディベートではなく、対話によるという話し合いのルールが毎回強調されました。相手を説得したり、納得させたりせず、共通理解を図る。どちらの考えも正しいのである。そんな話し合いから出された意見を判断材料にして、市が建設地を決めていくというのだった。

グループ内で1人の発言時間を2分とされ、グループ内の雰囲気や時間を気にしながら、自分の言いたいことを選びまとめるのは大変なことで、言いたいことが十分言えないモヤモヤを感じて終わりました。

こうした対話型の市民の話し合いは、計画の初期の段階で行うものではないかと思いました。

建設に向けての様々な市民の様々な動きが展開され、憶測が飛び、高齢者と高校生を分断するような空気も生まれるなど、着地点が見つからない状況の中で、自分の主張は抑えて、互いの考えを尊重すると言われて心情的に大変難しいものでありました。

しかし、総合病院跡地と駅前のそれぞれのメリットとデメリット、さらにそれぞれのデメリットに対し、どのような対策を取るかなどを考えることは、一般市民の私達でもできるのだから、市の関係者、職員や議員ができないはずはない。まして大金をかけて外部の調査までしているのだから、市が判断しても良いはずだ。市民とともに作り上げた結論という大義名分が必要なのだろう。

図書館建設地を決定できない市が最後の頼みの綱にしたのが、対話型での話し合いの市民の声なのです。という、お1人からのお手紙でした。

それから、もう一方、男性の方ですが、これは試案検討会議で踏み込んでいただけたらありがたいと思いますっていうふうに、傍聴された方からです。

2月15日に新図書館についての市民会議の4回を終えた。

市長は長年、駅前が優勢になる市民説明会等の結果実現を待っていたことから、市民会議がこうした結果になった原因はいくつか考えられるので、それについて話したい。

一点目、こうした市政課題について、一般の市民が深く勉強し、思索を巡らすということは、みんな日常生活で忙しいので、期待することが無理である。今まで図書館問題に対する何の問題意識も持っていない人が、任意抽出により問題を考える当事者にさせられた。そこで与えられたのは、一方に隔たる説明や資料であったら、やはりこういう結果にならざるを得なかったということであ

ろう。

2点目、今回の市民会議の進行システムは、市と市民活動団体が立地場所を巡って、対極にいるような関係になってしまったことから、駅前を推す市は一見公平を装いながら、自分たちに有利な参考資料の作成と説明を行った。説明も資料作成も一方の当事者である市が行い、もう一方の意見を持つ者たちには、傍聴は許すが資料提供や説明を行う機会が与えられなかった。然るに、結果がこうなることは、終わってみれば、明らかなことであった。全くの茶番に付き合わされたのである。参加者は、深い議論ができずに貴重な時間をもったいないことに使うはめになったのではないのでしょうか。

3点目、新花巻図書館の問題で、花巻市は市の将来に対するビジョンを市民に示すことができない組織であるように感じられたことであった。

市民のためになるような、良いアイデアを若い優秀な職員は提案できずにかわいそうである。市民はそのあおりを食って質の低い行政に耐えていかざるを得ない。ということで、厳しい言葉で締められておりました。

それから、私からも一つなんですが、2ヶ所の建設候補地の事業費の比較をする資料の説明会、専門的なことも多くあったんですが、その説明会での、ある会場での発言、その資料を見た市民が、数字的にはこれは病院跡地が安いんだ、では、せっかく出された資料だから、やっぱり病院跡地がいいんじゃないかっていうふうなことを発言したんですが、あの説明に来られた市の皆さんは、今回のこの説明会はこの比較調査の結果についての説明会ですから、これはどちらがいいかっていうことを聞くための説明会ではありません、という発言をなさったんですよね。確認した人はどちらがいいか決めかねるので、両方の比較した数字、調査をすべきではないかという、その結果を見てのそういう発言だったので、市民の声を聞かない、今までもいろんな説明会もありましたけれども、その中で様々な、何人が参加して何人が反対なのか、賛成なのかというようなことは一つも出てこなかったんですよね。

なので、さきほどの説明で、今後も引き続き市民の声を聞く機会を設けるなど市民の意見を聞いて進めたいと思います、という発言がありましたけれども、このような事を聞いてきた私にとっては、推して知るべし、なんか本当に市民の声を聞いていきますっていうふうなさっきの発言とはまた違うんじゃないかなっていうふうに聞きました。

以上です。

座長

市の方で何か答えればいいですか。

市民会議の参加者が減っていった理由を知ってますかっていうご質問だったと思いますが、他に何か。他の方のご意見はご紹介いただきましたけれども。

山下牧子委員

それから、本当に市民のそういう説明会においてさえ、遮るような、そういうことも目にしたんですが、今後もそういうふうな調子でっていうか。

座長

説明会で遮られたと言われた、遮られたと。その事実関係をお話しすればいいのですか。

山下牧子委員

はい。

事務局(高橋次長)

まず一点目、市民会議を欠席した方の理由でございます。どんどん減っていったのではないかと、今のご発言だったかと思うんですけど、確かに私ども、4回4時間という時間でしたので、長かった、設定はそのとおりだったかもしれません。4回目を欠席される方で連絡をいただいた方は、仕事の調整ができなかった方や、怪我をしたので休まれるっていうような方が、いらっしやいました。3回全て出てた方については全部出ていただいたんですけども、4回目は予備日としておりましたので、4回目欠席された方に関しては、仕事が入ってるだとかですね、怪我をってしまったっていうふうな方が多かったです。申し訳ありませんが、6人の参加者を表明された方につきましては、私どもはあくまで参加しませんかということでご希望いただいた中ででしたので、そういうようなことは、確認はしておりません。

市民説明会等々で意見を遮られたというご意見があったということなんですけども、この部分につきまして私ども今回どういう方法がいいかなということで、かなり山下委員にも来ていただいたとおり、市民会議という形を取らせていただいて、参加いただいた方には本当に自由に話していただいたというふうに感じています。確かに2分間っていう言い方をしたので、その時間だけで話さなきゃいけないかという勘違いをされたのかと思うんですけど、そこは1人1回2分なので、4時間の間に2分間しか喋れないということではなくて、1回の発言は2分程度にしましょうという部分の説明が不足していたんだと思いますが、ある程度皆さんもぜひ意見を自由にいただいたなっていうふうには感じております。

座長

よろしいでしょうか。

今、お手紙を読んでいただきましたけれども、何か皆さんの方でございますでしょうか。

佐々木史昭委員

時間は大丈夫ですか。そっちが心配です。

中村萬敬委員

駅前立地の候補地に挙げてるんですが、市長さんはどういうまち作りを考えてるんですか。デザインを示してください。お願いします。

事務局(高橋次長)

申し訳ございません。デザインの意味がちょっとわからないんですけども、どのようなことですか。

中村萬敬委員

デザインっていうのは、花巻市民にとって将来的にどういうふうに夢のある、あるいは生活の糧になるような市政、市の行政運営ですよ。そういったデザインはあるのかどうなのか聞きたいんですが

事務局(高橋次長)

今は図書館の場合なので、そういう場ではないんですけども、総合計画などで市の方針という部分は示しているかと思しますので、今ここでどういうデザインかという部分につきましては、お答えできかねます。

中村萬敬委員

すいません、市長さんをお呼びくださいよ。部長さんじゃ答えられないんだから。

座長

そういう会議ではないのです。

中村萬敬委員

それはそうだけでも、部長さんではちょっと限界があると思うんです。だから、直接ね、はっきりとこういうふうに、駅前を候補地にと公表したでしょう。このことについて、説明していただきたい。市長さんに。

事務局(梅原室長)

この場合は、生涯学習部長が座長である試案検討会議です。整備基本計画の試案を検討いただく、そういった位置づけの会議でございます。

座長

そういう想定の場合は、市長出席ということは考えてございませんので、ご了解願います。

中村萬敬委員

大体にしてね、この間の2月3日の一般質問に対しても、地方自治に対する考え方、市長さん。

座長

今はですね、この計画について話し合っているところですので。

中村萬敬委員

じゃあ、いいです。進めてください。

座長

ちょっとお話も長くなりましたけれども、皆さんの方から他に何か質問ご意見ございますか。
瀧さん、はい、どうぞ。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

はい。イーハトーブ図書館をつくる会の瀧と申します。

今日で3回目ですかね、試案検討会議に参加をさせていただいています。

市議会の一般質問とか、いろいろ分析をしてきました。本当に私達はあの3年位しかまだ経っていないんですね。ですけれども、本当に情熱っていうのは、この3年の間にいろんなことを吸収していろんなことを聞きました。その中で新しい図書館を作る事、これは本当なんですよね。新しい図書館を作りましょうということで、今動いてるわけです。新しい図書館っていうのは、人の集まる場所に建てられるものではなく、人を呼び寄せるための図書館、そんな考え方をするんですね。っていうことは、いろいろと、アクセスとか活性化とか安全、周辺の環境、駐車場この五つのうち四つは駅前ですよって言いましたね。そういう集約の数が出ました。この集約の数ってのは本当にそうなんですか。すごく疑問に思います。

なぜかっていうと、この、選定された3,500人の中の者75人が手を挙げて、そして私達の意見を言わせてくださいって言って手を挙げて参加したんです。その中で、本当に私が言いたいのは、6名の方が、さっきもお話で説明してましたけども、6名の方がなんで最初から最後まで参加しなかったのか、これがものすごく疑問に思います。怪我とかって話が出ましたけれども、そんな無責任なことはないだろうというふうに、すごく私は思いました。

やはりですね、あとはいろんな人が駅前っていうふうに決まりました。6日の日に議会の一般質問の中で市長さんは駅の方に決めましたっていうふうに表明しました。それに対してまたさらにいろんなことが聞こえてきたんですね。

駅前の方の説明会っていうのをしたんでしょうか。駅前にしたって、こういうふうな図書館が広く使われますよ、そして図面もやや大雑把ですが、出ますよ。こういうことの説明はされたんですか。

事務局(高橋次長)

一つひとつ説明させていただきます。欠席者の方と、駅前の方の意見を聞いたかというご質問かと思えます。あとは、図書館とはどういうものかっていう部分かと思えますが、確かに瀧さんが今おっしゃったように、図書館にはそういう考え方もあることは私どもも理解しています。ただ、一方で、別の考えを持っている方もいらっしゃることを、今回の参加者の方から私達も勉強させてい

いただきました。ですので、どちらがいいかっていう二者択一ではなくて、いい方法を考えた上でこのように判断させていただいております。

また、参加者が欠席するのはおかしいんじゃないかっていうご意見だと思います。その部分につきましては、どういう理由かは正直私も確認しておりませんので、わかりかねるところはあります。

駅前への説明ですが、駅前地区、花巻中央地区でこれまで何回か市政懇談会ということでお話をさせていただいて、何度かご説明をさせていただいております。その中で、ご参加いただいた方からもご意見をいただいたりですね、駅前商店街の方々、商店街組合の方々からご意見をいただいておりますが、そのときにいただいた内容としては、まだ場所決まってないんでしょうとおっしゃっている方もいらっしゃいますので、やっぱりそういう部分で候補地が駅と決まりました、私どもの方で判断させていただきましたので、これから詳細を、また改めて聞きながら、先ほど梅原が言いましたとおり、そういう部分でどういう形がいいかっていうまだ全然固まっておきませんので、駅前の人たちから改めてお伺いしながら進めていきたいなというふうに考えております。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

ということは、これからも説明会は駅前のところに決定したってということに対しての説明会っていうのはまだあるわけですね、今後も。

事務局(高橋次長)

あくまで市といたしましては、駅前を候補地として進めさせていただきたいというふうに考えております。その中でこの後、基本計画を策定するにあたって、市民参画の手続きがございますので、パブリックコメントだったり、市民説明会っていうのは、その中で花巻駅前を候補地として図書館をつくりますということでご説明をさせていただきたいなというふうに思っております。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

すいません。もう1点ですけれども、やっぱり駅前に決まりましたっていうふうに表明されてから、駅前のところに立ってみました。駅の周辺と、それからスポーツ屋さん、それからなはんプラザ。あの辺に、この図書館っていうのはどれだけのスペースに入ってくるのか、これは本当にシミュレーションしかないですよ。こうなんだな、ああなんだなっていうことしか考えられないです。図面が出てるわけじゃない。大まかなものだけです。だけれども、あの広場、なはんプラザの広場、あそこのところはどうなるんだろうと、今まですごくやっぱり、いろんなことで使われてきた、ああいうものを、図書館が入ってきたために、いろんな人に迷惑がかかるのではないかな。そんなようなことはやっぱり市は考えておられるのかと思っておりました。

事務局(高橋次長)

その部分につきましては、市民会議の参加者の皆さんからもデメリットということで挙げていただいております。皆さんで話し合った中では、例えば建物3階建てにして多目的広場の部分は

そのままにするとか、いろんな考え方ができるんじゃないかというご意見を対応策ということではいただいております。

ですので、これから駅に建てる候補地として準備する中で、例えば設計の中でどういう形ができるのかという部分も踏まえて、含めてですね、検討させていただいて、今駅前になさっているイベント等、私達も存じ上げておりますので、そういう部分も含めてお話をさせていただいて進めさせていただければというふうに考えております。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

もう一つ、ごめんなさい。

図書館本体という、赤いところ、図面にありますよね。これを見せていただいたんですけども、このところに芝生広場とか、いろいろ、こちゃっと固まっていますよね。こういう状況で本当にいいんだろうか、クレームが出てこないんだろうか、すごくそのあたりが。

事務局(高橋次長)

こちらはですね、比較調査の中で検討した資料ですので、あくまで今市が想定している台数でございます。先ほど来お話している通り、これがベースになるかどうかはこれからの話になるんですけども、最低限駐車場はこれぐらい確保できるなという想定でありますし、ここから例えば設計段階でこれからなっていく中で、どういうスペースができるのかっていう部分は話し合っているかなというふうに考えております。

瀧氏(イーハトーブ図書館をつくる会)

いずれどちらにしてもですね、場所の建設用地が二分化されたところの駅前に決まったっていうんですが、どちらとしても、やはり花巻ならではの図書館、もう私何度も言いました。30年後、50年後、やっぱり花巻の図書館はこういう建物でよかったね、将来の子どもたちに、受け継ぐために、私達は死んでしまいますけれど、本当に若い人たち、子どもたち、弱者にやさしい図書館、今いる人たちもそうなんです、そういう人たちに本当に早くこういう図書館で、すごく自慢できる、世界に自慢できる、そういうのをすごく思い描いているんですよ。それだけは本当に私達の活動の一つでもあります。

大切に市民の声を、正しく聞いて下さい。以上です。

座長

ありがとうございました。

他に皆さんから質問ご意見ございませんでしょうか。

山下牧子委員

すみません。何回も。

座長

簡潔におっしゃってください。

山下牧子委員

私達1年近くかけて、花巻病院跡地に図書館が欲しいっていう署名を10,300筆提出したわけなんですけど、この前の議会の中で10,300の中で6,000が市民の数ではないかっていうふうに、市長から言われましたが、市民の数としたら6,000、それからこれは日本全国、沖縄から北海道まで、私めくって、すごく感動したんですが、本当に6,000ぐらいの数が寄せられました。というのは、岩手の花巻の賢治の里の図書館のことなんだと、そこに良い図書館をつくってくれと心配してるっていうような、もちろんこの、花巻市の出身者とか同級生とか、そういう方も多かったんですが、本当に各地で賢治の里の図書館の事だということ、一筆一筆ちゃんと記入して送ってくれた、あの全国の皆さんの期待とかを持ってくださる、それは本当に見返りを受けない、心配しながら見守っている、花巻ファンの方だなどと思って、図書館の事はこうやって見守っていてくれるんだなっていうふうに感じております。

以上です。

事務局(高橋次長)

今のご説明の中でですね、私ども数を数えたという部分なんですけども、山下さんご存知かと思われましても、署名実行委員会の事務局の方から、同じ名前があるということで確認させてほしいということがあったものですから、私どもも、どれぐらいあるのかという部分で、数を確認させていただきましたので、ご了承いただければと思います。

また、署名につきましては最終的に10,269筆ということでご報告いただいておりますが、書名の中で三つ、私どもは署名実行委員会の方々からご要望があるというふうに理解しております。

一つ目は当然花巻病院跡地に建ててくださいという署名だというふうに理解しております。

二つ目は賢治ゆかりの地いかした図書館にしてくださいという、こういうことだと理解しております。

三つ目は市民の交流の場となる多目的スペースを備えた図書館にしてくださいというご要望だと思います。

私達の判断の中でこの署名も重要な判断になっておりますので、二つ目の賢治については、先ほど来梅原が説明しましたとおり、イーハトーブ館と連携して、賢治ナンバーワンの図書館を目指したいというふうに考えておりますし、三つ目の多目的スペースにつきましても、できるだけ広い世代の方が使えるような自由なスペースを作りたいというふうに試案の方に載せさせていただいておりますので、ご理解の方をいただければというふうに思っております。

座長

それでは時間も迫ってきましたので、たくさんご意見いただきましたけれども、本日の内容について改めて確認させていただきたいと思っております。

市といたしましては、本日議題の2件について、基本的には事務局の提案により案として進めていきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

座長

よろしいでしょうか。それでは、異議なしととりまして、進めさせていただきます。ありがとうございます。では、議事を閉じさせていただきます。

ちょっと進行に戸惑いまして、ご迷惑をおかけしました。

事務局(高橋次長)

委員の皆さん、ありがとうございました。

今後の流れでございますが、この後社会教育委員会や教育委員協議会を経て、基本計画試案が基本計画案となります。その基本計画案をもって、図書館協議会の審議やパブリックコメントの実施、市民説明会の三つの方法により、市民参画を実施した上で、教育委員会議の議決を経まして、基本計画が策定された後に、測量や設計の予算について、令和7年度もあまり遅くない時期に議会に諮りたいというふうに考えております。整備を進めるにあたりまして、先ほどのようにご説明させていただいておりますが、引き続きどのような図書館がいいかという部分につきましては、市民の意見を伺ってまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いたします。

なお、令和3年4月16日より開催してまいりました本会議も本日最終となりますことから、まずは今回のアドバイザーである早川先生に、突然ですがご講評、お話をいただければと思います。

早川氏

はい。私の方から、今日3月11日ですので、それに関するお話をしたいと思います。

14年前の3月11日、私は東京電力福島第1原子力発電所から25キロのこの図書館で仕事をしておりました。この図書館の設備担当の技師が、津波にのまれて亡くなっているんですが、その後図書館の灯りが消えて、全市民避難をして、だんだん帰って来られました。そのときに、こういう新聞の投書がありました。図書館に明かりが灯ったので、これで私は震災前の生活を取り戻せるというふうに言ってくださった方がいらっしゃいました。そういうのを聞いたときに言われたことなんですけども、私この図書館に来たら、これから先の人生に明かりが灯った思いだというふうなことを思い出しますが、ぜひそういうふうないろんな人のよりどころになるですね、ただ単に本を貸すとかそういう類の問題ではなくてですね、なんか、ちょっと人生に絶望しかけた方でも、図書館にこういうふうに誘い込まれるように入ってもらえるような図書館をぜひ目指してもらいたいなと思います。

計画室に最後、いよいよこれからですので、大変なのはこれからです。ただ非常にやりがいのある、期待されている仕事だと思っておりますので、市民の方と一緒にですね、市民の思いをぜひ形にさせていただけたらと思います。

委員の皆様、本当に長い間、ありがとうございました。私の方からもお礼申し上げます。
以上です。

事務局(高橋次長)

最後に、本会議の座長であります、菅野生涯学習部長よりご挨拶を申し上げます。

座長

令和3年4月から始まりまして、全16回ということで、長丁場で大変色々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

途中ではコロナ禍ということもあって、会議が途絶えたりという、そういう状況もありましたが、皆様のご意見をいただきながら、ようやく試案という形がまとまったと捉えてございます。

今後は試案をもとに、市民参画ということで、ご意見をと話がありましたが、市民の方のご意見を聞いて、図書館の建設に向かって進めていきたいと思えます。

いずれ、いろんな意見もあると思えますけれども、市民の皆さんが喜んでいただけるような図書館を早くつくるということで、職員一同頑張ってまいりますので、引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

事務局(高橋次長)

それでは、以上をもちまして第16回新花巻図書館整備基本計画試案検討会議を終了いたします。ありがとうございました。